

## □超音波エラーの診断方法について

超音波エラーが発生した際に考えられる原因は

- ①超音波発振器が故障してしまった。
  - ②超音波振動子の故障
  - ③ボンディングツールの取付が悪い場合  
傾向として締付けトルクが弱い場合に影響します。
- ※超音波発振器にはモデルA-6795(旧)、モデル10345と言う2機種が存在します。

上記の内容が考えられます。

### 対処方法

- ①本体の電源スイッチをOFFにして下さい。
- ②ボンディングツール及び固定用ネジを外して下さい。
- ③本体電源を入れて超音波エラーの発生があるか？ご確認下さい。

発生が無かった場合 ⇒

ボンディングツールを超音波振動子に取付けて固定ネジを強く締めて下さい。  
(締付けトルク12.8cN/m ~ 15.5cN/m)

発生があった場合 ⇒

超音波振動子及び超音波発振器の故障が考えられます。

超音波振動子は故障の可能性が低く、超音波発振器内のOSM(オシレータモジュール)が故障した可能性が高いです。

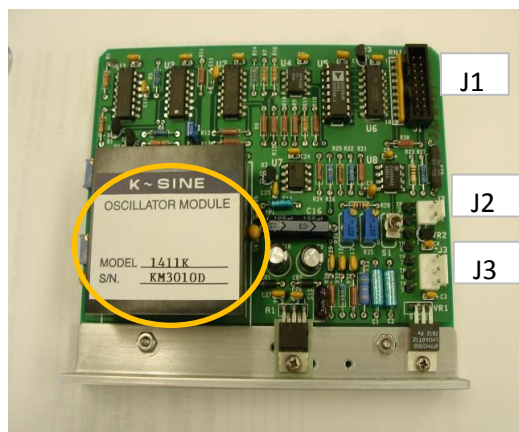
OSMには

その際の修復方法は2通りございます。

- 1、超音波発振器を本体から外して弊社に送付頂ければ、診断及びお見積をご提示させていただきます。  
修理完了後、ご返却を致しますので本体に取付を行なって下さい。
- 2、超音波発振器内のOSM部品を購入して頂き、お客様側にて部品交換をして頂きます。  
部品交換後、資料を元に校正作業を行なって頂きます。  
校正にはオシロスコープ又は周波数カウンターが必要となります。



モデル10345  
OSM モデル10345K



モデルA-6795  
OSM モデル1410K

### 取外し方

- 1、J1、J2、J3、J4のコネクターを抜いて下さい。
- 2、矢印の所に六角ネジが2箇所ありますのでインチの六角レンチを用いて外して下さい。